

# 豊かに、良く生きるための 認知心理学

参加費無料  
事前申込制

定員117名

ビッグデータ、インタビュー、縦断研究、脳活動などのデータをもとに、心理学の研究が社会にどのように役立てられ、役立ちうるかを話します。

2017年11月25日(土) 13:30-17:00

九州大学箱崎文系地区 202講義室

福岡市営地下鉄箱崎九大前駅より徒歩10分 箱崎キャンパスマップで緑色12番の建物です。  
[http://www.kyushu-u.ac.jp/f/28544/hakozaki\\_jp\\_2.pdf](http://www.kyushu-u.ac.jp/f/28544/hakozaki_jp_2.pdf)

犯罪捜査の行方は「記憶」が鍵を握っている。事件現場で起きたことを把握するには、関係者の供述が貴重な情報源となる。供述とは、目撃時の記憶を思い返し言葉にしたものであり、記憶のプロセスそのものである。また、捜査が進めば、被疑者に対しポリグラフ検査が行われることもある。犯人は犯行状況を詳細に記憶している。もし被疑者が事件の詳細を記憶していれば、犯人である可能性が高まる。このことを明らかにするのがポリグラフ検査である。この講演では、犯罪捜査において、記憶研究の知見がどのように活かされているのか紹介する。

## 犯罪捜査における認知心理学の役割

13:30-14:30  
大上 涉 (福岡大学)

15:30-16:30  
積山 薫 (京都大学)

## 健康寿命を延伸する ライフスタイルとは

心理学が解決に関わるべき社会問題の1つに、日本社会の超高齢化があげられます。人生90年時代になってきましたが、85歳以上になると半数近くの人が認知症になります。高齢になっても介護が不要な認知機能を維持するには、どのようなライフスタイルがよいのでしょうか。この問題は、世界中で多くの研究者が取り組んでいるところですが、私たちの研究室で得たデータを中心に、fMRIなどの脳機能データを交えてお話したいと思います。

私たちは日々、俳優の演技を目にしています。映画鑑賞が趣味の方や、ご家庭でテレビドラマを楽しんでいる方もいらっしゃるでしょう。一方で「演じる」こと自体は日常生活の中で誰でも多少おこなっていますし、特別な技術がなくても誰でもできそうな気がします。経験を積んだ俳優は、経験を積む中でどんな力を身につけているのでしょうか。私たちの知らない何を知っていて、何を見ているのでしょうか。研究結果をもとにお話します。

## 熟練した俳優が 見ているもの・ 知っていること

14:30-15:30  
安藤 花恵 (西南学院大学)

16:30-17:00  
総合議論

企画・司会: 光藤 宏行 (九州大学)

挨拶: 乾 敏郎 (追手門学院大学)

参加申込 ▶ メール、Fax、または往復はがきにて「公開シンポジウム参加希望」と明記のうえ、住所、氏名、電話番号をお知らせください。往復はがきでお申し込みの方は、返信用はがきに住所をご記入ください。

問い合わせ先 ▶ 日本認知心理学会事務局

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1  
九州大学 大学院人間環境学研究院(文学部)心理学研究室内

電子メール ▶ [g-office@cogpsy.jp](mailto:g-office@cogpsy.jp) Fax ▶ 092-642-2421

協賛: 認定心理士の会 九州・沖縄支部会  
共催: 九州大学大学院人間環境学府